

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜木小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「文法」の理解 算数「測定」 <指導上の課題> 定着度の底上げが必要。個人差があるので、個に応じた指導の充実や多様な学び方の工夫をする必要がある。	⇒ 基礎基本の定着を図るために、実生活の場面や実際のデータを取り入れた練習問題に取り組んだり、わかったことを文章に要約したり、習得した知識を友達と伝え合ったりする時間を設ける。【毎単元】 ⇒ 個別最適な学びができるよう、学校課題研究を生かし、単元構成を工夫したり、授業の進め方を工夫したりする。【学期1単元以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「読むこと」「書くこと」 算数「データの活用」 <指導上の課題> 習得した知識・技能を活用できていない。言葉や図等、様々な方法で表現できるよう指導の工夫が必要である。	⇒ 課題をもとに学習を振り返り、自分の言葉でまとめ、友達と共有することを積み重ねる。その際に、思考の長れを図式化したり、理由付けしたりすることを意識する。【毎時間】 ⇒ 目的に応じて読み、条件を整理して自分の考えをまとめ、書いたり話したりして表現する言語活動に取り組む。【毎単元】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語・算数・理科すべてにおいて、全国・県平均を大きく上回る結果となっており、基礎的な学力の定着が良好である。特に漢字や語句の理解、計算技能、理科の基本知識に関しては高い成果を示している。一方で、同音異義語の使い分けや分数・割合の意味理解、理科の知識の応用には課題が見られた。これらの課題を克服するために、国語では辞書を活用した語彙学習や文づくり活動、算数では図や実例を用いた意味理解、理科では実験結果の考察や仮説検証を通じた知識の応用力育成等、知識を単なる暗記に留めず、文脈や実生活と結び付けて活用する学習を充実させていく。そして、知識を活用する場面を意図的に設けることで、表面的な理解から実践的な運用力へとつなげていく。
思考・判断・表現	国語・算数・理科すべてにおいて、全国平均を上回る成果を示しているが、記述式問題では無回答率が高く、課題が残る。国語では複数資料の要約や関連付け、算数では分数や割合の意味理解と説明、理科では実験結果の考察や仮説検証において、思考を言語化する力が十分とは言えない。これらの課題を克服するために、児童が自らの考えを整理し、根拠をもって表現する活動に重点をおいて授業づくりを行う。(例えば、短時間作文や図解による説明、実験の振り返り活動などを通して、思考の可視化を図る。)さらに、教科横断的な言語活動や実生活に結び付けた課題解決型の授業を通じて、より深い思考と豊かな表現力の育成を目指していく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	職員アンケート結果からは一定の成果が見られた。分かったことを文章に要約したり、友達と伝え合ったりする活動が授業に定着しつつある。また、単元構成や進め方の工夫により、個別最適な学びへの意識が高まっている。一方で、実生活に結び付けたり、データを活用したりする学習の取組には課題があるため、習得した知識・技能を様々な場面で活用できるように指導していく。	変更なし
思考・判断・表現	B	児童の思考力や表現力を高める授業に意識して取り組んでいる教員が多い。授業の中での振り返りや考えの図式化、友達との学び合いを通じて、思考の可視化に取り組んでいる。また、書いたり話したりして考えを表現できるように、目的に応じた言語活動を授業に取り入れ工夫している。今後は、さらに記述力を高め、主体的に学習し表現する力を伸ばしていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)